

## 名古屋情報処理センターでの思い出とその経験の活かされ方

中村 直美(名古屋図書館事務課)

1992年11月、私は愛知大学に奉職しました。奉職以降11年間は、豊橋校舎での勤務(経理課、事務システム課、情報処理センター事務課分室)となり、この間名古屋校舎へは出張等で年に数回足を運ぶ程度でした。2003年4月から2004年2月までの9ヶ月間、情報処理センター事務課長として、名古屋校舎に赴任したのが、名古屋校舎における最初の勤務経験となります。

2003年当時、2004年4月の新車道校舎開校を機に、様々な情報化施策の準備が進められていました。この頃出席していた会議等を調べたところ、次のように大変多くのプロジェクトや会議に出席しています。

2004年情報メディアセンター(情報処理センターから改称)を中心に全学的に導入された『第6期システム検討プロジェクト』、車道新校舎の教室等の情報機器導入に関する会議、名古屋校舎と中国人民大学及び南開大学との間で遠隔講義を実施するためのICCS推進委員会『RMCS部会』、3キャンパス間をTV会議システムで接続し、授業や会議で活用するための『遠隔講義プロジェクト』、学生証・教職員証にICカードを導入する『ICカードプロジェクト』、教務事務の情報化を推進する『学生情報プロジェクト』、経理・人事業務の情報化を推進する『法人システム検討プロジェクト』、さらには車道新校舎に新設された法科大学院の情報化のお手伝いに関わっていたことを思い出します。

特に『第6期システム検討プロジェクト』は、自分自身が初めて導入に関与した全学的な教育研究に関わる情報化を推進するためのもので、ハードウェア・ソフトウェアの更新だけでなく、ネットワーク構成の見直しから、教育方法や教室の情報化といった、情報化に関する幅広い範囲をカバーするものでした。また従来「新システム」と呼んでいた新たなシステム導入のことを、「第6期システム」と数字でシステム名を呼ぶようになった最初のシステム導入でもありました。あわせて「第6期システム」導入を期に、情報処理センターから情報メディアセンターに改称をしています。

『RMCS部会』では、中国人民大学及び南開大学においてネットワークの現地調査を行ったことや、国際シンポジウムでは会場と南開大学との間を、ネットワークを介しリアルタイムに映像を接続したことが思い出されます。関連して当時の坂東昌子情報処理センター所長が京都大学で実施していたカリフォルニア大学との遠隔講義の様子

を見学させていただき、当時の最先端の技術を見ることができ大変印象深いものでありました。

このように2003年から2004年にかけての情報化施策の幾つかは、まだまだ現役のものを含めて、現在における本学の情報化の礎となっていると言えます。

さて現在私は名古屋図書館に勤務し、名古屋図書館の笹島新キャンパス移転の準備をしています。新図書館のレイアウトや蔵書構成を設計し、移転する図書の点検をし、時には図書の運搬をし、新図書館に収蔵しきれない図書の行き先を探すなど、移転全般の業務を取り仕切っています。

移転準備を進めていて思うことは、情報メディアセンターで数多くのプロジェクトに参加したノウハウや経験(プロジェクト管理の手法など)の1つ1つが、図書館の移転業務に活かされているということです。あらためて情報メディアセンターで経験したことは、貴重な経験であったと思います。

今は、2012年4月開校の新名古屋キャンパスの図書館に、多くの利用者を迎え入れること夢を見て、移転の準備を進めています。

(2011年9月30日名古屋図書館にて)